

秋田県知事 佐竹 敬久 様

森吉山の価値と未来を考える会

代表 宮野 貞壽

要 望 書

森吉山国定公園の新規指定と
拡張地域等の提案について

2024年(令和6年)5月20日

＜連絡先＞

NPO 森吉山ネイチャー協会内

0186-73-2510

＜要望主旨＞

私達は、2022. 6. 14 環境省発表「国立・国定公園総点検事業フォローアップ」の内容分析を基に、2023. 2. 2 北秋田市長へ要望書提出、2023. 9. 16 タウンミーティング開催を経て 2023. 11. 28 環境大臣には森吉山国定公園の新規指定と具体的な拡張地域と地種区分の格上げ地域を提案しました。

環境省は、フォローアップ発表 3 年目に当る今年度中には拡張地域の選択や公園区分について一定の方向性を示したいとしています。

長年、森吉山の自然保護地域の拡張に携わってきた地元山岳関係者にとっては、一般のフォローアップは時代がようやく追いついたものと評価するとともに、その推進をもって森吉山に係る公園計画見直しの総仕上げと考えております。

秋田県におかれましては、要望事項に示した公園区分と拡張地域等が具現化されるよう、ご尽力お願いする次第です。

＜具体的な要望事項＞

1. 森吉山は国定公園の新規指定を求めます

環境省は、新たな大規模拡張候補地である八幡平周辺に「国立公園区域の拡張又は国定公園の新規指定」という選択肢を示しました。その公園区分の選択に当たっては社会環境等の観点から検討（地域の意向・管理体制・全国配置 等）を経て、当該自治体と関係団体の合意によって決定されることになります。

私達は、森吉山の十和田八幡平国立公園編入に伴う拡張は、公園名称の消滅を意味し、地域にとって大きな影響を及ぼすため「森吉山国定公園の新規指定」を選択するものです。（別紙：資料-7 参照）

2. 森吉山の拡張地域の提案について

環境省は、今回のフォローアップによる拡張地域の対象に、人の営みが自然植生域と風景を作り上げた里地里山の二次的自然環境を加えました。

環境省の森吉山選定理由には拡張地域の言及が無かったため、私達は兼ねての構想に沿って、具体的な拡張地域に天然林の再生、景観の保全、小又川と森吉山ダム流域、マタギの里に「阿仁川流域と秋田内陸線沿線の里地里山」を追加し、全域が生物多様性の保全機能をあわせ持つ地域として提案するものです。

特に阿仁川と並走し連続する橋梁を走る秋田内陸線と流域の里地里山は、越後三山只見国定公園の只見線や阿蘇くじゅう国立公園の南阿蘇鉄道とは魅力を異にする、森吉山周遊観光のアクセス鉄道になりうるポテンシャルを持っています。

3. 既存公園内の地種区分の格上げについて

環境省は、自然環境保全上重要地域の地種区分の見直しを進めます。森吉山を取巻く第三種特別地域内の標高700～1200mの源流部を形成するブナ帯が木材生産林になっています。公園利用の景観保全に立脚した、地種区分の格上げは、国有林の施業計画の変更も視野に秋田県としても取り組むべき課題です。

4. 拡張地域と地種区分格上げ地域の合同視察のお願いについて

要望書に掲げた拡張地域と地種区分格上げ地域の合同視察（環境省・秋田県・北秋田市・市議会議協・考える会）を実施し、格上げと公園利用の増進気運を盛り上げていきたいと思ひます。

<具体的な拡張地域と地種区分格上げ地域の提案>

拡張地域	土 地	拡張地域等の特徴と整備指針
① 太平湖の全 集水域	国有林	● 自然公園区域外(森林休館利用林)に及ぶ太平湖東部から北部地域の全集水域が対象です。 ● 戦後復興の秋田杉搬出や拡大造林計画によるブナ伐採地のスギ植林地が成長せず、天然林が見事に再生している地域です。
② 小又川と森 吉山ダムの 流域	国有林 県有地 市有地 私有地	● 阿仁川の合流点から里山と森吉山ダムを中継し、太平湖につながる小又川流域は、濃密な生物多様性と深い渓谷美が重なる奥森吉への序章にふさわしい空間です。 ● 湯ノ岱地区は菅井真澄の「雪の秋田寝」にも登場する歴史的な場所で、奥森吉観光の宿泊行動拠点となってきました。集団施設地区の再指定(森吉山荘のリニューアルと温泉資源の確保、野営地・白糸の滝探勝路の再整備)地域です。
③ 森吉山西麓	国有林 社有林	● ゴンドラ遊覧の中間地まではブナ林とスギの混交林。上部付近の遊覧は石森～森吉神社～一ノ腰まで続く西麓一帯の広大なブナ林が目飛び込む。ゴンドラ観光と併せて森吉山随一のパノラマ展望域が公園区域外になっています。
④ マタギの里 山里地と打 当川流域	国有林 市有地 私有地 入会地	● 奥阿仁の玄関口である比立内地区を起点とする打当川流域は、マタギの里にふさわしい里山里地の景観を温存する未来に残すべき日本の原風景です。 ● 集団施設地区の候補地(打当温泉マタギの湯を起点終点、名瀑めぐりシャトルバス運行とターミナルや遊遊ガーデン・内水面試験池を包括した教学施設の整備地域)です。
⑤ 阿仁川と秋 田内陸線及 びその沿線 の里地里山	国有林 市有地 私有地 入会地	● 小又川、小様川、打当川、比立内川を束ねる阿仁川とその里山里地を観光鉄道内陸線で「つなぎ、みせる」ためのツールとして阿仁川流域と内陸線及びその里山里地の二次的自然景観を森吉山国定公園の新規指定に組入れるものです。
地種区分格上	土 地	地種区分格上げ地域の特徴
① 奥森吉の立 川源流域	国有林	● 公園内の森吉山山体標高 700m以上の源流域を形成するブナ帯が木材生産林になっています。公園利用の景観保全と天然林保護に立脚した地種区分の格上げが必要です。特に、奥阿仁は里山に連なる源流部であり、奥森吉のブナ帯はアオモリトドマツから連続する最後に残された水系の源です。
② 奥阿仁の打 当内沢と岩 井ノ又沢源 流域		

※ 拡張地域の⑤と地種区分格上げ地域は、追加要望になります。

＜添付資料＞

1. 森吉山国定公園昇格運動の変遷（抜粋）

- 森吉山の国定公園昇格運動は、森吉山山頂部スキー場開発計画が自然保護団体や山岳団体（以下 山岳関係者）の反対によって、大手デベロッパーの国土計画（株）が断念を表明（1990 年）したことを契機に、開発を推進した秋田県が「自然環境の保全優先を求める県民世論と観光振興を両立させる構想」として「国定公園化」という自然保護に舵を切ったことが始まりです。
- 山岳関係者から国定公園化要望を受けた旧森吉町は、議会の合意を得たが、旧阿仁町は山頂部スキー場開発を求める声を説得できず、昇格運動は一旦棚上げとなる。
- その後、山岳関係者は森吉山の山腹に残るブナ林の保護と国指定鳥獣保護区の拡大に運動の軸足を転換。その結果、奥森吉と奥阿仁の源流部に及ぶブナ林は危ういところで伐採を回避。国指定鳥獣保護区特別保護地区は 330ha から 3.5 倍の 1,175ha に拡大され、今ではクマゲラの森の愛称で多くのトレkkerに親しまれています。
- 2007 年以降、国と地方の役割分担や環境省が進める国立・国定公園の新規指定や分割の見直しを契機に、北秋田市議会や県議会では、再び国立・国定昇格の優位性を問う議論が活発化。
- 2017 年 3 月 北秋田市は市議会等の要請に応え「森吉山県立自然公園公開セミナー」を開催。公園区分を選択する提出資料が乏しかったため、意見は十和田八幡平国立公園編入論と冠を残す国定公園推進論の二名の発言のみで終わり、意見集約はできず、具体的な推進表明には至りませんでした。
- 2022 年 6 月 環境省から時代を一気に跳び越す朗報（2010 年に続く国立・国定公園総点検事業フォローアップ結果）が発表されました。
- 2023 年 2 月 山岳関係 4 団体 北秋田市に要望書を提出。
市長は 4 団体の要望に対して次のように述べています。
※環境省発表のフォローアップは、国際公約を待たずにもっと早く進めてほしかった。
※他の自治体の情報や、拡張地域についても具体的な提案を頂き、今後の調査の課題も浮かび上がり参考になった。
※十和田八幡平国立公園分割の話も聞いているが、今回の発表には無いようだ。
※大規模拡張と言っても、今のままでの国立公園編入では合意が難しいと思われる。
※山岳関係者の皆さんが国立ありきでなければ、一気に国立編入ではなく、北秋田市単独の森吉山は国定公園の階段を踏んでからでもよいのではないか。
- 2023 年 5 月 4 団体は国交省東北地方整備局 能代河川国道事務所に、森吉山ダムを公園の拡張地域に組入れる案を説明。
※事務所としては「ダム管理に支障が無ければ公園指定に異論はない。大いに盛り上げてください」との応援あり。
- 2023 年 5 月 秋田県は、環境省へ要望書提出
国立・国定公園の新規指定・大規模拡張の早期実現について
- 2023 年 6 月 北秋田市は、環境省へ早期昇格を求める要望書提出

●2023 年 6 月 北秋田市がシンポジウム開催（キックオフ イベント）

・森吉山の価値と未来「国立・国定公園に向けて」

・基調講演

①「新しい生物多様性の国際目標と森吉山」

環境省東北地方環境事務所 次長 羽井佐 幸広 氏

②「夢と冒険 モンベル7つのミッション」

株式会社モンベル代表取締役会長 辰野 勇 氏

・パネルディスカッション「自然公園の保全と地域振興」

○コーディネーター 名取 洋司 氏（国際教養大学准教授）

○パネリスト 羽井佐幸広 氏（環境省東北環境事務所 次長）

辰野 勇 氏（株式会社モンベル代表取締役会長）

佐藤 健太 氏（北秋田市地域おこし協力隊）

※4 団体が要望したシンポジウムのテーマは、拡張調査地域(案)を環境省に提示し調査を加速させること。森吉山を十和田八幡平国立公園に編入、または新規国定公園の選択は市民から意見を聴取する場を設けることでしたが、森吉山に関する説明の乏しさに加え、参加者からの意見や質問の機会も与えない。という異例のシンポジウムで終わる。

●2023 年 7 月 北秋田市長は、東北環境事務所にも早期昇格を求める要望書提出

●2023 年 9 月 4 団体がタウンミーティングを開催。

※北秋田市主催のシンポジウムが不協和音に終わった為、「もっと知ろう 国立・国定公園昇格の選択について」情報交換。

※鹿角管理官事務所・市議・県議・一般市民の出席を得て、フォローアップの分析、森吉山の拡張地域の提案、自然環境整備事業の仕組み、私たちは「なぜ 森吉山国定公園の新規指定を選択するのか」等々、多岐にわたって意見交換を行う。

●2023 年 11 月 米代東部森林管理署 上小阿仁支署と情報交換を行う。

※支署長は、現時点で環境省からの説明や動きは一切ないので何もわからない。

※北秋田市の動きを新聞紙上で把握しているだけ。

※4 団体は北秋田市に提案した拡張地域(案)について説明し、公園区域内の地種区分の格上げについて、景観保全に配慮した機能類型区分の変更をお願いした。

●2023 年 11 月 森吉山の価値と未来を考える会 環境大臣に要望書を提出。

・森吉山国定公園の新規指定について

・拡張地域の提案について

※バックアップ資料をもとに約 2 時間半にわたって情報交換を行う。

※丸山課長補佐は、詳細な分析資料による提案は初めて。森吉山の国立編入のネックは、利用の導線が無いことである。具体的な調査で今年中に方向性を示したい

●2024 年 2 月 津谷市長と情報交換

・環境省東北環境事務所への要望活動(2023.11.28)の報告

・拡張地域の追加提案(阿仁川と内陸線及び沿線の里山里地)について

・拡張地域の合同視察(森吉山、奥阿仁、奥森吉、阿仁川と内陸線沿線)を提案

※視察メンバー(環境省・秋田県・北秋田市・市議会議員連・考える会)を提案

2. 市民、商工会関係、行政関係者の国立・国定議論の動向

① 一般市民の関心度

- 一般市民の生物多様性の保全に係る国立・国定公園の新規指定や拡張方針は、身に迫る地球温暖化問題に比べればその関心度は希薄である。
- ※森吉山が単独国立公園になると勘違いしている人に、森吉山が十和田八幡平国立公園編入か又は新規国定公園の選択であると問えば、八甲田山や十和田湖、八幡平や岩手山という距離感から、編入などありえないという返答になる。
- ※また、国立公園になればネームバリューが上がり、国が何でも整備してくれる。と錯覚している関係者も多いようである。(国立・国定公園の自然環境整備事業等は、基本的に地方自治体が交付金を活用して事業執行する立付けになっている)

② 観光物産協議会の動向

- 2017年3月 動きが鈍い北秋田市の対応に、北秋田市観光物産協議会を核とする関係14団体は「森吉山国定公園昇格運動連絡協議会」設立発起人会を立上げ、市長にその代表を求めたが了承が得られず設立に至らず。
- 私達は、環境省がフォローアップで国立公園編入又は国定公園の新規指定の選択を示した後にも、発足を再三求めたが、2023年10月に動きを停止した。
- ※その理由は、公園区分の選択は三県を跨ぐ広域的な課題が多岐に及んでいるため、市が対応する事案であること。自然公園法の裏付けや拡張地域など地理的なフィールド力がないこと。公園区分の選択をリードできる法的知識や情報力を持っていない。とし、私たち4団体にその方向性を委ねたいとのことであった。

③ 北秋田市議会の動向

- フォローアップ結果発表前の国定公園昇格の動きに対し、極端な国立論者の市議の一人は「国定公園などは地方公園に変わらない。国定格上げは目先の都合にとらわれる安易な方法。将来を考えて決して得策とはならない。森吉山の名称が使われなくなるという心配もあるが、岩手山、乳頭・秋田駒も同様である。名を捨てて、より大きな実を得るために十和田八幡平国立公園に編入することが道理である」という論戦を張った。(2016/12 定例議会一般質問)
- ※「国定公園などは地方公園に変わらない。名を捨て、実を得るためには編入が道理である」などという認識は、全国58ヶ所の国定公園立地都道府県に対する侮辱に値し、北秋田市民全体の見識をも問われ兼ねない発言である。何故ならば、栗駒国定公園(77,122ha)など国立公園の面積要件(30,000ha以上)を遥かに凌駕する国定公園は全国13カ所に及び、日本百名山は16座を数え、日本二百・三百名山を謳歌していることを理解しなければならない。
- ※フォローアップ結果発表後、私たちの情報提供や国定公園選択理由を伝えてからは、一方的な国立公園編入論の声は聞かれない。
- 2023年9月 市議会は「森吉山エリア国立・国定公園化推進議員連盟」を設立。
- ※国への要望活動や研修会開催、市民や各団体との意見交換会などを通じ、森吉山一帯の国立・国定公園化の早期実現を目指す。としているが、推進議員連盟としては、公園区分の選択は市長の決定事案をサポートする立場を執る。要望団体の意見交換開催提案も最大会派の議員らの合意が得られないとのことである。

④ 北秋田市産業部のスタンス

●公園区分の選択は「地域の意向と熱意」を尊重する。という環境省の方針に対し、市産業部は「早く調査を開始し、国立編入か新規国定の方方向性を示してもらうことが先である」との受け身の立場を繰返している。

※「30by30by」に伴う拡張地域の調査と公園区分の選択には、別の視点で進める問題であるが、市サイドは市民や各種団体の意見集約も含めて、すべて環境省の資質調査結果を待ちたい。という議会質疑等が繰返されている。

※市長は私達が提案した拡張地域案についても、拡張地域に合致するかも含めて環境省の資質調査の結果待ちたい。とのニュートラルな姿勢を変えていない。

●2024. 2. 16 私達は、拡張地域の資質について市長の考え方を払拭するため、「30by30by」に伴う地種区分の指定要件を説明。

※拡張地域は自然公園の許可規制がかからない普通地域でも対象になる。例えば、阿蘇くじゅう国立公園の南北 25 km・東西 18 kmのカルデラ内の平地に 5 万人余りの人口を有する、1 市 3 町 2 村の市街地・農地・里地里山の全域が国立公園の普通地域である。とすれば八幡平周辺の選定地域で資質対象外となる地域は皆無である。北秋田市の総面積 1, 152 km²の約 40%が国立公園に成り得る計算にもなる。

⑤ 秋田県議会の動向

●2015 年以降、県議会では地元県議らによる国立・国定公園格上の可能性について調査がはじまった。北林丈正県議の調査によると、当時の環境省の見解は、国立編入は極めて厳しいとのことであったという。それは、「森吉山の自然要件が編入にふさわしい条件を満たしているのか、また仮に満たしていても、編入や分離は関係自治体の同意を必要とする」とのことから、その三県と関係自治体や観光関係者等の調整の難しさは想像に難しくない。国立と国定を同列に並べ天秤にかけるものではない。との感想をコラムで述べている。

●2022 年 12 月 北林議員は県議会予算特別委員会総括審査で、環境省が八幡平周辺の大規模拡張候補に森吉山県立自然公園などが選定された報道について質問。

*森吉山昇格は、観光誘客などのメリットは大きい。全国の選定自治体では環境相への陳情もすでに行われている。受入れ体制が整った地区から調査が始まるとの声も聞かれる。発表以来いまだ地元市町村の動きがない。関係市町村と連携して早期実現に取り組むべきだ」と指摘。

※北林議員の質問に対し、佐竹知事は「国立・国定の区分もあるが、まずはこの機会を逃さないように県として協力できることは全てやりたい」。真壁 生活環境部長も「県が音頭を取って 8 月に環境省から関係市町村に説明をしてもらった。調査の具体的なスケジュールはまだ示されていないが、関係市町村の意向を聞きながら連携して県の役割を果たしていきたい」と述べている。

⑥ 和賀山塊・真昼山地・田沢湖抱返り・太平山の動向

●北秋田市を除くと、環境省の発表に対し仙北市の観光協会サイドの勉強会が行われているようであるが他の関係自治体の動きは見えない。

※第三者の立場で述べると、岩手・秋田両県 3 市 2 町にまたがる和賀山塊と真昼山地は、白神山地に匹敵する原生林を温存する山塊である。車窓観光中心の八幡平地

区と異にする山塊は、縦走路から東には和賀川流域が深く横たわり、西に俯瞰すればブナ帯から里地里山を挟んで仙北平野に瑞穂の海原が浮かぶ。公園区分の姿はおのずと導かれるであろう。

※大平山県立自然公園(11,897ha)は、秋田市・五城目町・上小阿仁村に及ぶ太平山地で、北秋田市阿仁地域に聳える白子森(1,179m)で繋がり、単独で国定公園新規指定の面積要件(10,000ha)を満たしている。環境省の拡張地域に関する言及はないが、今後の自然環境調査が待たれる山域である。一昨年の豪雨災害で林道網が壊滅的被害を受け、環境調査の遅れが危惧される。

⑦ 乳頭温泉郷組合等の十和田八幡国立公園分割議論

●北東北三県(青森・秋田・岩手)にまたがる十和田八幡田国立公園の十和田湖八甲田地域と八幡平地域は、時代が求める利用増進の使命を掲げ、共に地域経済の波及効果を求め社会的連携を深めてきた。しかし発展的な地域のブランド力に視点を置いた分割論と名称変更の声が高まっている。

●集団施設地区にも入る乳頭温泉郷(乳頭山麓に点在する七つの宿と七つの湯)の関係者は、十和田八幡平国立公園の八幡平地域の分割議論を活発化させている。「一度は行ってみたい日本の温泉郷ベスト 20」にランキングされる乳頭温泉郷としては、同じ十和田八幡平国立公園の十和田湖八甲田ではない、八幡平地域の乳頭温泉郷ブランドが視野にあるという。今は公園所在地の市町村と観光協会等の反応や温度差を探っている段階であるが、いずれはシンポジウム等を開催し、具体的な分割議論を深めていきたいとのことだ。

●乳頭温泉郷の環境省所管の集団施設地区のキャンプ場の案内板は「十和田八幡平国立公園」の表記はあるが、一帯の道路標識や休暇村の宿泊施設には、過去にあった十和田八幡平国立公園の表記は消え「ここは乳頭温泉郷」「休暇村乳頭温泉郷(National Park Resort)」の表記のみである。国立公園のブランドが薄れた感が大きい。

⑧ 上小阿仁支署と情報交換

●2023(R5)11月15日:東北森林管理局米代東部森林管理署上小阿仁支署と情報交換

- ・環境省が進める国立・国定公園総点検事業(30by30)に伴い、四団体が2月24日に北秋田市長に提出した要望書に係る拡張地域(案)を説明する。
- ・上小阿仁支署は林野庁から連絡が届いていないので、現時点では新聞紙上の情報しか持っていないとのことであった。
- ・環境省の国立・国定公園の拡張及び新規指定に伴う、拡張地域や既存自然公園内の地種区分格上げにおいては、機能類型区分に反映をお願いする。
- ・今般の情報交換に基づき、後日要望書を提出することとした。

⑨ 環境省の調査動向

●2023(R5)11月28日:環境省東北地方環境事務所(仙台)へ要望書提出

- ・環境省は来年度からの本格環境調査に向けて、その方向付けを検討している。
- ・この度の要望書は「環境調査や地域の意向・熱意も含めて、地域の要望があれば早めに伝えた方がよい。」という本省のアドバイスを受けて、調査主体となる東北環境事務所国立公園課に提出したものです。

＜要望主旨＞

- ① 拡張地域の提案と既存公園内の地種区分の格上げについて、画像資料を基にその重要性を伝える。
- ② 公園区分の選択については十和田国八幡平国立公園編入ではなく国定公園の新規指定の意思を伝え、国立編入反対の声が起こることがないように対応を求める。
- ③ 要望内容に沿った現地視察をお願いする。

＜環境省のコメント＞

- ① 拡張地域と既存公園区内の地種区分の格上げについても、具体的な提案は全国でも少ないと思われ大変参考になります。
 - ② 拡張地域は生態系の保全、景観保全、公園利用の観点から調査したい。
 - ③ 既存公園内の地種区分の格上げは、登山道等からの景観保全を重視したい。
 - ④ 八幡平地区と森吉山地区は、火山地形という類似点はあるが、利用の面では歩道等の導線が無く一体性が薄いことは把握している。
 - ⑤ 国立公園の拡張という八幡平地区本体の拡張地域も考えていかなければならない。
 - ⑥ 国立公園というネームバリューで人が動いていないことは確かである。環境省としては、皆さんの提案と意見も参考にしながら、奥羽山系の南北に連なる生態系ネットワーク形成上から八幡平周辺の国立・国定公園選択のストーリーを考えてみたい。
 - ⑦ 今回のフォローアップでは、十和田八幡平国立公園の分割は考えていない。
 - ⑧ 国立編入に当たっては構成自治体の受入れ合意が前提である。
 - ⑨ 今年度中には、公園区分と拡張地域調査の方向性を示したい。
- ※2 時間半に及ぶ長時間のご対応に感謝を申し上げてきたところです。